

オーラルフレイルについて

患者さんの口の衰えありませんか？

オーラルフレイルは、健康な口腔と口腔機能低下の中間にある状態で、軽微な口腔機能の衰えを示します。適切な介入がなされないとフレイル、サルコペニアおよび低栄養のリスクが高まるとされており、医科歯科連携のもとに介入を実施することが望ましいとされます。オーラルフレイルは、2024年に日本老年医学会、日本老年歯科医学会、日本サルコペニア・フレイル学会によって提唱された新しい概念です。

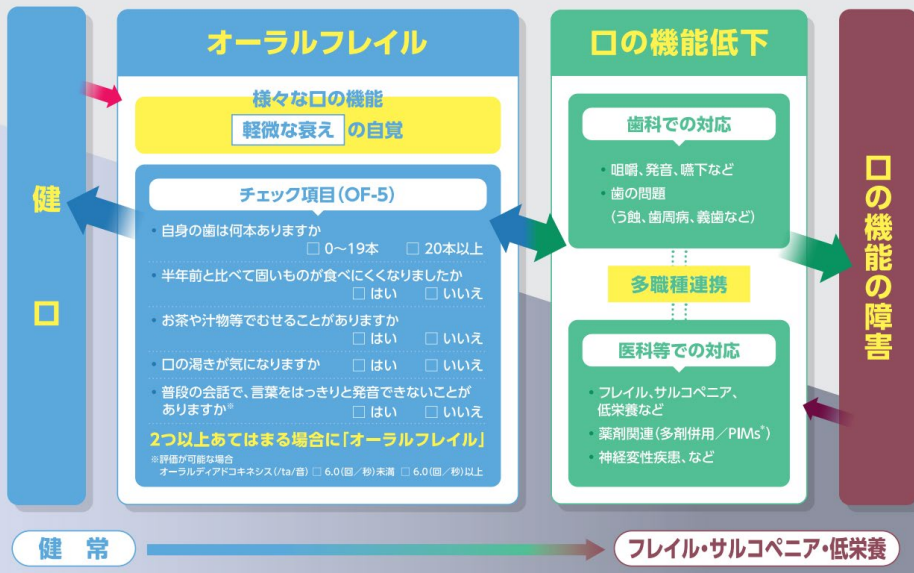
Tanaka T, et al. Geriatr Gerontol Int. 2024



オーラルフレイルを検出するには..

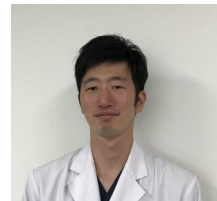
- 1) 残存歯数の減少
- 2) 主観的な咀嚼能力
- 3) 嚥下困難感
- 4) 口腔乾燥
- 5) 滑舌低下

2項目以上該当で
オーラルフレイルと
判定（具体的な測定
方法は左図を参照）



オーラルフレイルに関する3学会合同ステートメント

- 歯科専門職でなくても口腔機能を簡便に評価できるように開発されたツールで、患者さんのセルフチェックでも評価可能です。病棟などでご活用ください。
- 歯科介入は、周術期における術後合併症などや退院後の有害事象のリスク低減に有効であることが示されています。 Sakai H, et al. Jpn Dent Sci Rev. 2024, Ohi T, et al., JAMDA. 2025
- 口腔機能、嚥下機能の低下が疑われる場合は、**嚥下治療センター**へご相談ください。



文責) 口腔機能回復科
歯科医師 小宮山貴将